

# 脱炭素都市づくり

## 【目指す都市の姿】

活力や快適性を備えながら、脱炭素化と気候変動による影響への適応が実現したまち

## 【施策の方向】

- 脱炭素型のまちの構造をつくる
- 脱炭素型のエネルギーシステムの構築を進める
- 環境にやさしい交通への転換を進める
- 脱炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを定着させる
- 気候変動によるリスクに備える

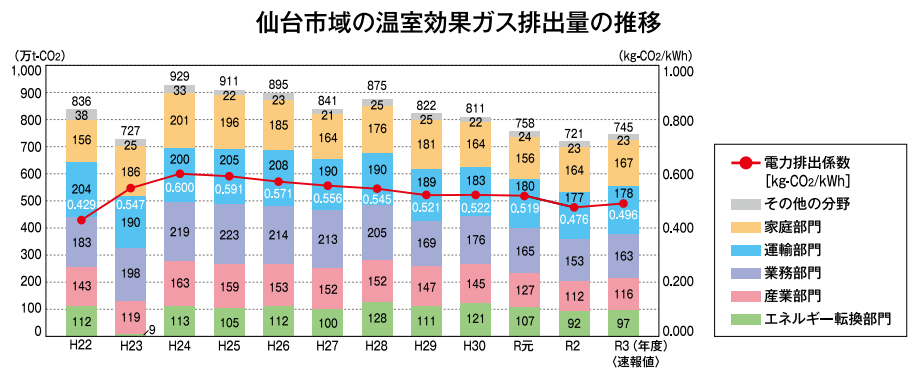
## 【関連するSDGs】



## 本市の現況

### ■ 温室効果ガス排出量の推移

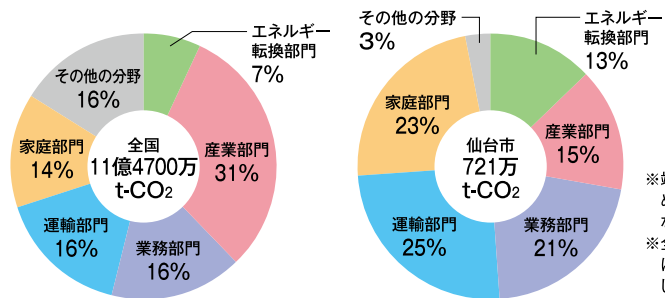
直近の推計結果である令和3年度の温室効果ガス排出量は、速報値で745万t-CO<sub>2</sub>(平成25年度比18.3%減)となりました。基準年度である平成25年度以降、減少傾向にあります。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大によって落ち込んでいた経済の回復等が影響し、令和2年度より排出量が増加したものと考えられます。



### ■ 仙台市の特徴

温室効果ガス排出量の部門別割合を全国と比較した場合、本市の特徴としては、産業部門の割合が低く、業務部門、運輸部門及び家庭部門の割合が高いことがわかります。これは、仙台市は大規模な製造業が少なく、オフィスでの空調や自動車の利用、家庭での給湯・暖房などのエネルギー消費が多いためと考えられます。

### 仙台市と全国の部門別温室効果ガス排出量割合の比較(令和2年度)



※端数処理をしているため、合計が100%とならない場合があります。  
※全国の排出量については環境省資料より作成しています。

## 令和4年度に実施した主な取り組み

### ■ 事業活動における取り組み

市域の温室効果ガス排出量の約6割を占める事業活動からの排出を削減するため、「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づき、事業者と市が協働して計画的な温室効果ガス排出削減に取り組む「温室効果ガス削減アクションプログラム」を推進したほか、災害に強いエネルギー自律型のまちづくりを推進するため、災害時に地域の防災拠点となる民間施設への再生可能エネルギー等設備の導入事業や、クリーンで安定的なエネルギーの製造・供給を行う事業に対する支援を行っています。



## ■家庭における取り組み

家庭における電気使用量の割合が高い冷蔵庫及びエアコンを対象として、古い家電を省エネ性能の高い家電へ買い替えた方に、抽選で温泉宿泊券等の景品が当たるキャンペーンを実施しました。

また、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)※の基準を満たす住宅に設置される太陽光発電システム等に対する助成や住宅等の窓断熱改修に対する助成のほか、初期投資が不要な太陽光発電システム導入を行う事業者への助成や共同購入により太陽光発電設備・蓄電池の導入を図る取り組みを実施しました。

※ZEH(ゼッチ)とは、断熱性能の向上や省エネ設備の導入により、使用するエネルギーを減らした上で、太陽発電等の再生可能エネルギーを導入することで、年間のエネルギー消費量の収支がプラスマイナスゼロとなることを目指した住宅のことです。



▲キャンペーンチラシ

## ■市有施設等における取り組み

指定避難所を中心とした199カ所(令和4年度末現在)に太陽光発電と蓄電池を組み合わせた防災対応型太陽光発電システムを導入し、運用しています。また、ごみ焼却工場における廃棄物発電や、上下水道施設における小水力発電の導入など、再生可能エネルギー等の有効利用を推進しています。

さらに、官民連携の取り組みとして田子西地区及び荒井東地区においては、民間資本との協働によって特定のエネルギーに依存せず、エネルギー効率が高く非常時も安心な都市づくりを目指す「エコモデルタウン事業」を実施しました。



▲指定避難所の太陽光発電パネルとリチウムイオン蓄電池

## ■地球温暖化対策のための啓発

市民、事業者、行政の協働により、省エネ・創エネ・蓄エネの「3E」実践に向けた普及啓発に取り組むため、「せんだいE-Action実行委員会」を組織し、様々な取り組みを行っています。

令和4年度は、市民が普段行っているエコな行動を募集する「わたしの杜の都スタイル」Instagram(インスタグラム)キャンペーンを開催しました。また、夏を快適に涼しく過ごす知恵の一つである「打ち水」を推進する「打ち水イベント」や市内で開催される大規模イベントへの出展、南小泉小学校及びたまきさんサロンで緑のカーテンづくりなどにより、3Eの普及啓発を図りました。



▲打ち水イベント

## ■環境にやさしい交通手段への転換

「せんだいスマート」をキャッチフレーズに、移動手段が固まっていない本市に転入してきた方を対象に、市内のバス路線図や公共交通に案内などの情報を提供するなど、市民、交通事業者、企業、学校などとの協働により、公共交通の利用を促進する取り組みを行っています。

また、平成25年3月に都市内の移動手段として、みんなで自転車を共有するコミュニティサイクル(愛称「DATE BIKE(ダテバイク)」)を導入し、二酸化炭素の削減や地域の活性化を図るほか、自転車通行空間の整備等により、自転車を利用しやすい環境づくりを推進しています。



▲DATE BIKE

## ■機能集約型の都市づくり

令和3年3月に策定した「仙台市都市計画マスタープラン～都市計画に関する基本的な方針2021-2030～」に基づき、「杜の都」としての豊かな自然環境と都市機能が調和した都市空間や、東北の中核都市としての多様な都市機能を備えようとするとともに、利便性が高く環境にやさしい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市構造を目指しています。また、令和5年3月には、都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて、公共交通による利便性が高い区域に居住機能や都市機能を誘導するエリアを設定して、緩やかにこれらの機能を誘導し、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりに向けた取り組みを推進するものとして「仙台市立地適正化計画」を策定しました。